

# より良く生きる―出居清太郎先生の世界― 第16回

山本博也

(1) 手を机に。ピッタリつけければ影は出ない

机の上に手の影が映るのは手が机から離れているからである。影に、迷ったり動揺したりしてはならない。手を机にピッタリとつけてしまえば影は消えてしまう。影を消そうと思わず、影と争わず、影に心乱すことなく、手を机と一つにすることを勉強してほしい。

かまぼこは板にピッタリとくっついていて、紙は糊ですき間なく張られる。わ

れわれは天地自然の理法という「法」(のり)を糊として、神にぴったりと心をつけて、すき間をつくらなければ、迷いも動揺も生じない。雑音を耳にしたり、いやなさまを見せられて、腹を立てたり、不平不満を持ったりするのは、心が神にピッタリとついていないからである。

(出居清太郎先生のお言葉から)

その昔、街でも暗がりが多くて、自分の影の大きさに驚いたり、釘に掛かった雨合羽の影が人の姿に見えてこわかったりということがよくありました。

最近それは少ないでしょうが、こん

なことはどうでしょう——病院に行つて診察を受けた。医者が、処置をしますと言つて衝立の陰でゴソゴソし始めた。何をされるんだ？痛いのか？と不安がつのります。やがて医者が注射器を持って現れた。なんだ注射か、心配して損した。——

そのように、実体のない、あるいは正体のはつきりしない、いわば影のようなものに対して、あれこれといやな想像をはたらかせて不安がつたり、悩んだりしている場合が多々あるのではないでしょうか。

こうなつたら困るなあ、ああなつたらどうしよう…と、まだ起きてもないことを、したがつて正体がわからないことについて、くよくよと考えて（つまり自分で影を作つて）、取越し苦勞をすることも

よくあります。

若い人たちは、将来自分の望む仕事につけるだろうか、ちゃんと生活できているだろうかと不安に思い、悩みます。歳を重ねてくると、病気にならないだろうか、老いるとはどういうことだろうかと気にかかります。

それらについて、マスメディアやネットや、あるいは口コミを通して多くの情報が入ってきて、不安が増幅されます。



曼殊沙華 大西 恵

しかしそれらは結局、数字やデータであり、一般論であり、だれかの場合であつて、この私のことではありません。私にとってはずべて影のようなものといつていいでしょう。

そのような影―実体ではない、真実ではないもの―に惑わされないためにはどうしたらいいか。結局は世の中の、影ではない真実をしっかりとらえることではないでしょうか。

**(2) なつてくることを感謝して受け取りなさい**

「どうしたらよいでしょう」と相談する人があつたので、「なつてくることを感謝して受け取りなさい」というと、「それでは身が亡びてしまいます。なつてくることを、どうすれば回避できるか、その

相談にきているのです」という。

柿の実がなつた、みかんがなつたという。その「なつた」という意味は、種がまかれて芽生え、成長し、花が咲いて実つたことをいう。病気になつた、貧乏になつた、困つたことになつた―人生において「なつてくる」ことも、すべて種がある。それが時期を得て「なつてきた」のである。この道筋を悟れば、喜んで、勇んで、刈り取つていく勇気がわいてくるはずである。

(出居清太郎先生の言葉から)

世の中の真実の一つは、出来事はすべて、天地の理法のままに成るべくして成る、ということ。そのまま受け入れるしかありません。その覚悟を持つこと

でしょう。その覚悟がないと、動揺し、迷い、姑息（こそく）なことを考え、より深く影に惑っていくことになります。

### （3）明日どんなことが起きようとすべて神の配慮

逃れようとしても来るべき困難はやってきます。私はこれまで、捧誠会で勉強していれば病気にならずにすむと教えたことは一度もありません。災難が避けられると言った覚えもありません。艱難辛苦も神慮の試練であるとだけ言っただけです。

私自身、明日の朝には血を吐くような試練が待っているかどうかは知りません。なれども今夜はゆつくりお風呂に入つて、やすらかに寝ます。明日にどんなことが起きようと、すべて神の配慮と信

じているからであります。通らねばならぬ道筋はいやがおうでも通らねばならぬし、また通していただけるのだと信じているのです。安心しているのです。

（出居清太郎先生の言葉から）

世の中の真実のもう一つは、自分の身に起こるいかなる出来事も、それに対応する中に、自分が向上し、幸せへと通じる道があるということです。

そう納得すれば、どんな困難や苦難に対しても、不平不満なく受け入れる覚悟を持つこともできるでしょう。それがすなわち影に惑わされない生き方にほかならないのではないのでしょうか。

発行所 〒170-0011 東京都豊島区池袋本町3-11-1

修養団捧誠会 <https://www.hoseikai.or.jp>